

Akihiro Shinbo 新保明弘

大好きな釣りを仕事にする
人生を選ばなかった。
だからこそ今の「喜び」に
出会えたのだと思う。



なんでそんなに釣りが好きなのか？それは単純に楽しいからである。それは釣りをするすべての人に共通することだと思う。

そんな当たり前な理由で始めた釣りが、今では自分の人生の大きな支えとなっている。

小学生の頃、なかなか思うように魚が釣れない時期（今もそうだが）、釣り番組でブラックバスを次々と釣り上げるプロフェッショナルアングラーを見て、自分もバスアングラーになりたい、と夢を描いた。休日には親にねだって富士五湖や芦ノ湖に連れて行ってもらい、平日は学校が終われば、狩野川にシーバスを釣りに行った。とにかく無我夢中で釣りをした。それはやっぱり釣れた時に楽しいから。

そのまま、夢は変わらず、時が流れ、自分の釣りの知識を深めるために水産系の大学に進学した。そこで魚の勉強をしながら、先輩の紹介で釣り雑誌に連載をはじめた。自分の夢が一つの形になった瞬間である。そこからさまざまな釣り業界の方と知り合い、話をする機会が多くなるようになった。釣り自体も、ブラックバスだけではなく、シーバスやヒラメ、オフショアのキャストイングゲームと幅広く楽しむようになってきた。imaとの出会いもそんな中から生まれたのである。

大学4年生の後半、すでにある釣り具メーカーから就職内定をいただいていたとき、大学の体育の教授から来年度より釣りの実技をメインとした集中講義を開始するから協力してほしいという話を受ける。当時、4年制の大学で単位のとれる釣りの講義は無かった。内定をいただいた釣り具メーカーを断り、1年間研究生として大学に残り、その講義の土台作りに協力した。すべてが楽しかった。しかし、そんな中、自分が健康で好きでやれるなら頑張りたい。と応援してくれていた母親が体調を崩した。腎不全による人工透析の導入。医師からの説明を受けたが、そのすべてが理解受け入れることが出来たわけではなかった。「自分だけ好

き勝手に、釣りをしている良いのだろうか？」と思っていた。そんなとき、看護師をしていた母親本人から、「あんたは、優しいし、根性もあるから看護師にでもなれば？普段の日に休みがとれるから釣りもしやすいと思うけど」

その言葉を受け、2年間受験勉強をし直し、看護学校を受験、何とか合格した。3年間、看護師を目指しながら、その間もやっぱり釣りを続けた。それは楽しいからだと思う。そして平成19年、正看護師国家試験に合格、自宅と釣りのホームグラウンドである狩野川、伊豆半島に近い総合病院に就職することができた。

しかし、看護師の仕事は想像以上に厳しかった。不規則な勤務時間だけでなく、人間の生命、その様々なクライマックスに直面し、精神的にも、肉体的にもしばしば追い込まれることがあった。それでも釣りを続けた。それはやっぱり楽しいから……

そんな生活を続けてきて今、思うこと。それは人に「有難う」と言ってもらえることが、看護師と釣りのテストターという足の草鞋をはく、今の自分の大きな支えになっているということだ。

看護師として仕事をしていて、患者さんや御家族から「有難う」と言ってもらえる。自分が好きな釣りをさせてもらっている中で、imaを始め、テストターをさせてもらっているメーカーさんからも「有難うございます」と言ってもらえる。釣り場での出会ったアングラーに、「新保さんの記事をみて尺メバル釣れました。嬉しかったです。有難うございます」と言ってもらえる。

ただ楽しい、自己満足のために始めた釣りをきっかけに看護師となり、働きながら、釣りをしている様々な形で有難うと言ってもらえる。そんな私に関わった全ての人々に、私から改めて「有難う」と言わせていただきたい。今私の胸中は、そんな感謝の気持ちでいっぱい。